あり、倭名抄郡名部に、足利阿志加々と見ゆ、こは手利口利の例にて、文字の如く足利かとも思へど、さる語例は物にも見へねば、必しかにはあらざるべし、故強て稽ふるに、もし麻利の轉訛には非じか、當國はよき麻の出る國なり、郡こそたがへ鹿沼麻として今の世にも名産あるなり、足利に並びて安蘇郡あるも、麻郡の義なるやとおもはる、猶後賢考ふべし、此足利より西南ノ方一里許に、利保村といふがあるは、足利保の上略にやあらん、又陸奥國耶麻郡小布瀬郷、河沼郡等に、利田村といへるあるは、所謂上田にて、作毛に利潤ある義なるべし、此陸奥なるは、會津風土記郡村篇に見へたり、猶類聚名義鈔、色葉字類鈔、字鏡集、平他字類抄等にも、利字をばカゞとよめり、

梁田郡

〔萬葉集二十〕天平勝寶七歳乙未二月、相替遣二筑紫諸國防人等歌、

奈爾波刀乎、已岐涅氐美例婆、可美佐夫流、伊古麻多可禰爾、久毛曾多奈妣久、

右一首、梁田郡上丁大田部三成、

安蘇郡

〔續日本紀三十七桓武〕延暦元年五月乙酉、下野國安蘇郡主帳外正六位下若麻續部牛養、〇中略等、獻二軍粮一並授二外從五位下一、

都賀郡

〔伊呂波字類抄志國郡〕下野國　都賀府トカ

〔郡名考〕下野　都賀ツカ　スガ

〔續日本紀三十光仁〕寶龜六年七月丁未、下野國言、都賀郡有二黑鼠數百許一、食二草木之根一數十里所、

〔萬葉集二十〕天平勝寶七歳乙未二月、相替遣二筑紫諸國防人等歌、

都久比夜波、須具波由氣等毛、阿母志志可、多麻乃須我多波、和須例西奈布母、

右一首、都賀郡上丁中臣部足國、

寒河郡

〔郡名考〕下野、寒川サムカハ　サカハ

〔萬葉集二十〕天平勝寶七歳乙未二月、相替遣二筑紫諸國防人等歌、